

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (九州)	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・第4波に突入しているが、ワクチンの普及も鑑みながら景気は回復すると期待している。
	○	商店街（代表者）	・最近、商店街がテレビや新聞で報道されてから、日頃来ない客も増え始め、少し売上につながるのではないかと期待をしている。
	○	百貨店（売場担当）	・全体の3か月後の売上は、前年比110%以内だと推測している。来客数の伸びが悪いが、客単価はしっかり確保しており、食品関係は安定して動いている。衣料品関係次第で、ある程度の売上の見込みがあるとみている。
	○	百貨店（経営企画担当）	・前月下旬以降、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、客足が直近と比較すると減少傾向となっている。今後の感染拡大の状況次第ではあるが、感染者数は上下する傾向のため、数か月後は改善すると見込んでいる。
	○	コンビニ（エリア担当）	・東京オリンピック景気とワクチン接種の推進で、より自由な行動が見込まれる。
	○	家電量販店（従業員）	・コロナ禍による巣籠り需要で、家電の購入が増えている。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・新規の客で特に一部の地方で増加している状況である。Go Toキャンペーンが再開されると、災害復旧により一部の地区の客が更に伸びると予想される。それに伴い、事業所でのコーヒーの需要も高まり、2～3か月先は若干増加する。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ワクチンの普及次第であるが、旅行観光需要は高まっている。
	○	ゴルフ場（従業員）	・県外移動自粛ムードのなか、密になりにくいゴルフ入場者数の増加傾向は続く。
	○	美容室（経営者）	・自粛生活でも2～3か月先には購買意欲が出てくるのではないかと考えており、また、夏が近づけば忙しくなるため、少しずつ景気回復すると期待している。
	□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスのワクチン接種次第で、今後は変化していく。しかし、先行きははっきりせず、今の状況が継続すると、良いはならない。
	□	商店街（代表者）	・この時期はイベント等様々なことが催されている時期であるが、まだまだワクチン接種が行き届いておらず、商店街への来街客は年齢層が高く慎重であるため、来店増加も先になると予想される。
	□	一般小売店〔青果〕（店長）	・当店では、生活に関する必需品の製作にかかわっているため、まだ新型コロナウイルスの影響がないようである。しかし、当地でも感染者が急増しており、客の購買意欲にも変化が出てくると考えられ、また、6月にはGo Toキャンペーンや東京オリンピック等人的移動もあり、先行き不透明である。
	□	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・新型コロナウイルスの影響で、売上は全く先の見通しが分からない状態である。
	□	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況やワクチンの接種状況等、先行き不透明なため今後は読めない。
	□	百貨店（営業担当）	・感染再拡大の懸念やワクチン接種で外出自粛や感染予防の意識は継続しているものの、サテライトショップやギフトショップ、また、ネット・通販受注の充実で客の動きが期待できる。自家需要の紳士トラッドやリビング用品、家電製品等し好性の高い舶来雑貨・時計等は依然堅調で、客単価、商品単価は維持している。慎重な行動姿勢や生活防衛意識及び3密防止で県外との往來の不確実性や自家需要中心の購買は継続していく。
	□	百貨店（営業担当）	・今月は非常に厳しい状態で、3か月先も変わっていないと予想している。その原因として、新型コロナウイルスの感染拡大やワクチン接種が進んでおらず、新型コロナウイルス対策が進んでいない限りは、景気も上向かない。一方、富裕層の動きは、特にラグジュアリーブランドや時計等一部商材は好調である。しかし、全体を押し上げるには、まだまだ行き着いていない。
	□	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの影響は続くと予測され、景気が上向くとは今のところ考えにくい。

<input type="checkbox"/>	スーパー（総務担当）	・現状から推測すると、このまま更に悪くなる可能性もあり、懸念される。
<input type="checkbox"/>	スーパー（企画担当）	・コロナ禍の終息はまだまだ先であると想定され、状況は余り変わらない。消費者も現状に慣れてきており、急激な回復や悪化はないものと推測する。
<input type="checkbox"/>	スーパー（経理担当）	・新型コロナウイルス第4波の状況で、ワクチン接種による効果の時期により社会生活が変化する。社会が活性化するとスーパーマーケット需要も多少落ちるが、収入が増えれば違う形で増加が見込める。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・3か月後もワクチン接種が行き渡る状況にないと予測しており、新型コロナウイルスの第4波、第5波と終わりがみえない状況に陥っていると考えられ、元に戻るには数年掛かり、厳しい状況は継続される。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・ワクチン接種が終わらない限り、この状況に変化はない。したがって、この悪い状況がしばらく継続することになる。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染の抑制やワクチン接種の進捗次第で売上の回復は見込めるが、現状はコロナ禍での来店頻度は少ないまま生活必需品中心の購入により、景気は変わらない。
<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、時短営業の要請で周りの飲食店が休業すれば、若干夜の来店客は伸びると予想されるが、そのこと以外では伸びる要因がないため、2～3か月先も余り変化はない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスのまん延が収束せず、来街者や来店客がほとんどいない状態がまだ続く。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの影響が止まらない。ワクチンもまだ接種できない人が多く、現場で関係者が混乱している。先行き不透明で安定してないため、2～3か月先の身の回りの景気が読めない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染が広がらないという前提で、状況は変わらない。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（取締役）	・今後については、ワクチンの普及や効果で景気が上昇すると考えられるが、東京オリンピックの開催ははっきりせず、医療体制も迷走しており、現在の政治状況に不安があり、今後に期待できる好材料がないため、引き続き企業努力をしていく。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス特需が激変しており、今まで特需状態であったテレワーク関連商品や高級調理家電の動きが止まっている。東京オリンピックで、黒物関連の需要が見込める予定であったが、先行きが不透明なため盛り上がりがない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・巣籠り需要も落ち着き、厳しい状況が続くと危惧している。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・今月の落ち込みは、前年より更に激しい。前年は特別定額給付金の給付により、持ち直して悪くない状態が続いていたが、このまま何も無い状態であると景気の低迷が継続されると考えている。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（総務担当）	・新型コロナウイルス特需の反動も予想され、大物商材の動きが鈍くなると他の商材への影響が大きくなる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（広報・IR担当）	・テレワーク需要、巣籠り需要が一巡しているが、今後の新型コロナウイルスの影響が不透明で、先行きが懸念される。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・新車の売行きに、新型コロナウイルスは大きな影響を持たなくなっている。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・販売スケジュールに大きな変化はないため、今の販売状況にも変わりはない。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（総務担当）	・新型コロナウイルス第4波の影響を心配しているが、新型車投入計画もあり、新車販売は今後も順調に推移する。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（代表）	・ますます状況が悪くなるようで不安である。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（従業員）	・夏寝具の需要の高まり及びボーナスを見越しての高額の買物客が増えるシーズンとなる。また、5月は寝具の衣替えの季節で、リフォーム等のメンテナンス需要も例年高まる。このメンテナンス需要は緊急事態宣言下であった前年度も景気に変わりなかったため、期待したい。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター]（統括者）	・ワクチン接種が進めば、人の動きが活発化されると思われるが、現状では、先行き不明である。

□	高級レストラン（経営者）	・緊急事態宣言発出で休業や時短営業をしても、解除後は感染拡大しており、このままでは、良くはならない。多人数による感染拡大やワクチン接種の遅延等早く対策をとらなければ、繰り返すことになり懸念される。
□	観光型ホテル（総務）	・ワクチン接種の進み具合から、しばらくは感染拡大の波が前年と同じであるが、景気回復はワクチン接種が一般市民に浸透する秋以降になると予想する。
□	観光型ホテル（専務）	・コロナ禍の先行きは全く分からず、2～3か月で収まるとは考えられない。県内の客は若い層が多いため休日に偏っており、平日の動きが全くない。団体が入らないため、売上に大打撃となっている。
□	旅行代理店（職員）	・緊急事態宣言が発出された都心部へのビジネスやレジャーが、減少している。
□	タクシー運転手	・月末に入り、大型連休を前にして急速に感染者数が増加しており、緊急事態宣言が発出されると、よりタクシー利用が減少するのは確実で、遅れているワクチン接種に期待するしかない。
□	通信会社（企画担当）	・年度が明け、順調に引き合いや新規受注がされており、引き合いの数が大きく増減しているとは感じない。
□	通信会社（統括者）	・前年度から来店予約制度が客に定着してきており、客の分散来店で対応がスムーズになっている。客にしっかりと説明する時間は取れているものの、一方、本体以外の附属品購入意欲は一昨年ほど高まっていない。
□	通信会社（企画担当）	・今月の販売量増加の明確な理由が不明で、見通しが難しいが、現状維持を見込んでいる。
□	通信会社（業務担当）	・現在横ばいであるが、再び新型コロナウイルスの影響を受けると下向きになる可能性がある。
□	観光名所（従業員）	・新型コロナウイルス変異株の感染拡大が懸念される。
□	競馬場（職員）	・感染の拡大と収束が繰り返されると考えられ、このまま状態は変わらない。
□	理容室（経営者）	・今月は若干売上が落ちている。要因は、常連客が進学や就職、転勤で一気に減り、加えて当地でも新型コロナウイルスの感染者数が増加しており、来店サイクルが延びている。したがって、売上が減少し、先行きは非常に厳しい。
□	設計事務所（所長）	・現在の仕事が2～3か月先までは継続するため、変わらない。
▲	商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況が、このまま止まらないと予想されるため、現状より良くはならない。ワクチン接種が進めば、今年よりも改善される。
▲	商店街（代表者）	・ワクチン接種による景気回復を願うが、夏場までに景気が持ち直す雰囲気はない。
▲	百貨店（企画担当）	・夏のクリアランスセールは例年と異なり、各ブランドが五月雨式にスタートすると予測され、客の購買マインドも高まりにくいと考えられる。
▲	百貨店（企画担当）	・変異ウイルス感染の拡大により、外出自粛の傾向が再度高まりつつあり、景気回復への見通しは不透明である。外出自粛の影響で、衣料品関連の需要が更に悪化することが見込まれる。その上、ワクチン効果が期待されるのも数か月先であることから、現時点からすぐに回復することは想定できない。
▲	百貨店（業務担当）	・前年のように不安を感じている客は少ないが、当面、学事行事もイベントも中止になり、外出が減ることで、需要が大幅に減少している。また、前年と同じく春夏に感染拡大状況となっている。
▲	スーパー（店長）	・緊急事態宣言が発出されたことにより、今後の来客数動向は、更に減少すると判断している。
▲	スーパー（店長）	・都心部から新型コロナウイルス第4波が発生しているため、九州でもその影響は避けられない。そのため、消費動向も悪化すると判断している。
▲	スーパー（統括者）	・前年からの落ち込みが、他社と比較すると容易でないことを考えれば、今後競合他社に負けない対策が必要になる。
▲	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される。

▲	家電量販店（店員）	・前年の今頃は、テレワークやリモートによる影響でパソコン、また巣籠り需要による白物家電の売行きが良かったが、今年は様子が変わり購入が止まっている。新型コロナウイルスの終息がみえない状況で、景気が落ち込んでいくのではないかと危惧している。
▲	住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症がまん延し、緊急事態宣言が再発出され、販売者、購入者共に先行きに不安をもっている。
▲	その他専門店〔書籍〕（副店長）	・新型コロナウイルス感染者数増加により、来客数の減少があると予想している。
▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・今後2～3か月の景気動向としては、新型コロナウイルスの感染状況次第になるが、なかなか厳しい状況にあると考えている。前年をピークに経済は少しずつ動き出しているが、負債が積み上がっている中小企業も多く、どこまで耐えられるか不安視する取引先も増えている。
▲	一般レストラン（経営者）	・感染が広がっているため、当然影響が出てくる。終息に向かっていかない限り状況は良くなり、消費を促す対策ができていない。
▲	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの影響で、県内外の人の動きが悪くなると金は回らないため、3密を避け、対応強化していかなければいけない。
▲	ゴルフ場（営業）	・新型コロナウイルスの影響で、再び緊急事態宣言が発出され、人の動きが悪くなっている。
▲	美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、外出自粛が多くなり、ゴールデンウィークでも客の見込みはない。3か月先はもっと悪い状況になり、店の倒産が増加すると予想され、当店も例外ではないため、支援を望んでいる。
▲	美容室（店長）	・前月は、来客数が増加したが、今は低迷している。2～3か月先も新型コロナウイルス次第で状況が変化すると予想しており、先の見通しが立たない。
▲	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・地方への景気や新型コロナウイルスの影響は、都市部より遅れてくるため、現在感染拡大している地域が落ち着いた後、新型コロナウイルスの影響を受けることが予想される。
▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・新型コロナウイルス第4波の全国的な拡大の影響で、外出自粛による通所系サービスのキャンセルや過度に感染を恐れる高齢者の訪問系サービスのキャンセルも懸念される。
▲	住宅販売会社（従業員）	・来場者数減少が続けば、今後の販売にも影響が出てくる。
▲	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの影響で、人出が鈍っており、対面型飲食には客足は少ない。一方、Web等非対面の事業は伸びており、景気は変わらない。
×	商店街（代表者）	・ゴールデンウィーク後は、一気に来客数が減少する。先行き不明のため、新型コロナウイルスの影響がどこまで減少するかは、予想ができない。
×	商店街（代表者）	・現在、感染者数が増加傾向にあり、新型コロナウイルスの感染が収束しない限りは、来客数及び売上の回復は望めない。
×	一般小売店〔精肉〕（店員）	・新型コロナウイルスの影響が、どれほど長引くか見当がつかず、不安である。
×	一般小売店〔生花〕（経営者）	・2～3か月先は、卒業式や母の日等大きな花を消費する大きなイベントがないため、今後は単価や個数が少ない注文を多くこなし、維持していくかに懸かっている。
×	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が、当面続く。
×	コンビニ（店長）	・雇用等の立て直しは予測がつかず、閉店も考えなければいけない。
×	高級レストラン（経営者）	・当店は、企業の接待が多いが、4月の新型コロナウイルスの感染状況やゴールデンウィーク、加えて企業の予約状況で判断すると5月は厳しい状態になる。新型コロナウイルスの感染が収束していき落ち着けば、6月には動きが出てくると考えられるが、5月は、前年以上に悪い月になると懸念している。
×	一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況で景気に変化するため、今後の状況が読めず、危惧している。

	×	スナック（経営者）	・今月中旬から、飲食店の時短営業要請が出ている。都心部では緊急事態宣言が発出され、ゴールデンウィークの外出自粛要請や平日のリモートワークの奨励もあいまって、外食産業が盛り上がる状況ではない。
	×	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・現状の対策では、後手になっており、状況が悪くなるのではないかと悲観的になっている。このままでは、感染は拡大し景気は悪化していく。雇用調整助成金の給付に期待し、何とか存続できるような対策を考えている。
	×	都市型ホテル（販売担当）	・第1四半期の影響をそのまま受ける状況が見受けられる。
	×	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況から、早くワクチン接種が全体に行き渡れば、若干経済の動きが変わると考えられるが、現在ワクチン接種が進んでおらず、景気に対して危惧している。
	×	設計事務所（所長）	・新型コロナウイルス感染が収束しない限り、景気は上昇しないと考えられる。収入減少の現在では、家の建築や購入は先送りになるのではないかと懸念している。
企業 動向 関連 (九州)	◎	食料品製造業（経営者）	・前年の水害被害から、復興へと進んでいる。来月数商品が発売再開となる予定で、売上増加が見込まれる。
	◎	電気機械器具製造業（総務担当）	・コロナ禍での半導体不足に伴い、半導体関連の受注が更に増える計画が客より提示されている。
	○	農林水産業（経営者）	・コロナ禍による販売不振は、外食向けを中心にいまだに残っているが、単籠り需要でスーパーマーケット向けは、順調に推移している。冷食メーカー向けも一部の地区の原料調達不足もあり、引き合いは強くなっている。外食向けは、前年の状況までにはまだまだ程遠いが、70～80%までには戻りつつある。加えて、Web販売等も徐々に増加しており、将来に対する期待が高まる場所である。
	○	金属製品製造業（事業統括）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、増加傾向の引き合いは、受注売上増加に影響する。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・人員の補強も進めており、9月には設備も増強する予定で、キャパも増えつつある。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・新型コロナウイルスワクチンの普及度合いと感染抑制の効果の見極めが、今後の焦点となる。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・客の生産計画から判断すると、休日出勤もあり上振れ傾向である。ただし、半導体不足の影響も引き続き注視する必要がある。
	○	建設業（社員）	・5月の連休が終われば発注も本格的になるが、同時に景気も上向いてくることを望んでいる。発注が遅いと新型コロナウイルスの影響も大きくなるため、非常に危惧している。
	○	金融業（営業担当）	・東京オリンピックを控え業種全体的には人の動きも戻り、景気は良くなると考えられるが、都市部での緊急事態宣言の効果、またワクチン接種の進捗度合いにより、状況は変わっていく。
	□	農林水産業（従業者）	・今後は出荷する産地が増え、九州出荷の野菜価格は低迷する。
	□	食料品製造業（経営者）	・受注状況も悪くなく、この状態を下回らないことを願っている。
	□	家具製造業（従業員）	・市場では目立った変動はなく、物件情報も少ないまま推移している。しかし、その状況でも小規模展開の店舗やオフィスといった新規物件は少なからず存在しており、同業との価格競争に巻き込まれないためには、新しいアプローチが必要である。
	□	化学工業（総務担当）	・農薬価格の見通しが不透明である。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・夏になるにつれて、受注関係が落ちることが気掛かりである。今後Web関係を充実していきたい。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・客との取引は、しばらくこの状態が継続する。	
□	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いや商談等からは先が見えない状況で、今後の予想が立てにくくなっている。	
□	通信業（経理担当）	・今後も新型コロナウイルスに対する有効的な具体策が示されなければ、この状況が継続され、先行き不透明なままである。	

	□	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス感染者は増加の一途で、都心部で再度緊急事態宣言が発出されている。今後、新型コロナウイルス感染対策の動きが強まることにより経済活動が抑制され、企業の資金繰りや事業継続に影響を及ぼしてくる。ワクチンの普及時期もいまだ不透明であり、現段階では景気回復は見通しにくい状況である。
	□	金融業（営業）	・今の景気レベルは超低レベルであり、これ以上に落ち込む余地がなく低迷は続く。ワクチン接種による急激なウイルスの抑制を期待できず、現状維持を見込んでいる。
	□	不動産業（従業員）	・賃貸物件の入居率が、横ばいに推移している。
	□	新聞社〔広告〕（担当者）	・新年度に入り、動きが鈍化している。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社Webのアクセス数や問合せ件数に大きな変化がない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・今の状況は、個人で打開できるものではなく、当分活動は控えめになると予想される。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・現時点の受注量の見通しから判断すると、若干悪くなる。
	▲	輸送用機械器具製造業（経営者）	・半導体供給不足問題で、影響が出ている。
	▲	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言も発出されたことで、生産が抑えられる可能性が高く、見通しはかなり低い。
	▲	建設業（従業員）	・4月からの新しい体制になり、管工事部門がメインになるため、今から売上等が減少し景気は悪くなる。
	▲	輸送業（従業員）	・新型コロナウイルスの影響や米中の対立悪化の影響により、原料や仕入価格が上昇しているとメーカーから情報がある。そのため、在庫調整が今以上に進み、いずれは原料の値上げ分が商品に転嫁される可能性があるため、先行きは暗い。
	▲	輸送業（総務担当）	・ワクチン接種は始まっているものの、変異株の影響で若年層にも感染が拡大している。第4波の収束状況で景気動向も変わり、物の流れも変化していく。
	▲	通信業（職員）	・新型コロナウイルスの影響で先延ばしとなっている案件があり、今年度の受注目標に対しての予想額が低い状態である。
	▲	金融業（従業員）	・公共工事は高水準で推移しているが、新型コロナウイルス感染者数が再び大幅に増加しているため、飲食店のほか、ホテルや旅館、旅行業者等では先行きを不安視する企業が多い。
	▲	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大を受けて、景気の先行き不透明感や閉塞感が強まっている。人の動きも制限され、当面は景気回復を後押しする材料に乏しい状況が続く。
	▲	その他サービス業〔物リース〕（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が、更に活発化するおそれがあり、先行き不透明なため、現状よりも悪化する。
	×	繊維工業（営業担当）	・ゴールデンウィークの店舗休業は生産にとっても大打撃で、景気が良くなる状態ではなく危惧している。
	×	経営コンサルタント（社員）	・倒産寸前にまで追い込まれている。資金調達も苦勞している。
	×	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・5月は発注が増える時期であるが、発注件数が少ないため、入札においても低価格競争となる可能性がある。無理して落札しても赤字となるおそれがあるため、経営的に厳しくなる。市町村から委託を受けるコンサルタント業界として景気が悪くなることが予想される。
雇用 関連 (九州)	◎	—	—
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・駅ビルや倉庫型小売店舗等のオープン特需はしばらく続くが、加えて、ワクチン接種もスタートすれば、若干人の動きも出てくると予想される。
	○	民間職業紹介機関（職員）	・変異株まん延による経済活動低下のリスクはあるが、オンラインの選考も定着し、企業業績も一部業種を除いて回復していることを考えると求人も増えていくと考えられる。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人の動き自体はワクチン対応関連業務が多く、サービス業の求人低迷状態が継続している。
	□	人材派遣会社（社員）	・登録来社人数の増減は落ち着いている。また、前年は新型コロナウイルスの影響で注文が減っていたが、今年もその影響は続いており、注文は少ない。

□	人材派遣会社（社員）	・求人に関しては、企業側も求職者側も新型コロナウイルスによる先行きが見えないため、産休欠員等の期間限定の内容が多く、繁忙期増員の依頼等の求人は、増えてはいかない。
□	求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの影響は日を迫うごとに厳しくなっている。今のところは緊急事態宣言は発出されていないが、いつ緊急事態宣言が出て仕方がない状態が続いている。
□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、大きく景気が上向くとは考えられないが、コロナ禍の生活に慣れてきており、それに応じた社会保障で、当面は現状維持の景気が続く。
□	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの影響により、新規求人数の増加が見込めない。
▲	人材派遣会社（社員）	・求人数の動きが若干回復していたが、新型コロナウイルス変異株の影響で悪い影響が出始め、採用意欲の低下につながるおそれがある。
▲	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、影響が考えられる。
▲	新聞社〔求人広告〕（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第のため、先行き不透明である。ワクチン接種は進むと思われるが、変異株の増加や行動範囲の広い若者の感染増加を考えると、好転していくとは考えられず、むしろ悪くなっていく。
▲	職業安定所（職員）	・3月に入り、新規求人数の前月比が増加しており、4月も新規求人が順調に申し込まれている。しかし、4月中旬までは、雇用調整助成金の相談も減少していたが、中旬以降は新型コロナウイルスの感染再拡大が顕著になってきたため、管内では緊急事態宣言の発出はまだないが、行事の中止や観光施設が休館となっている。このため、観光業を中心とした産業に影響があると考えられる。
▲	学校〔大学〕（就職支援業務）	・都心部で緊急事態宣言が発出され、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が続いている。今後は、他の地域にも影響が広がっていくことが予想され、新卒採用者数の調整は更に進むと考えられる。
×	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の縮減が予定されており、企業の資金繰りが厳しくなると予想される。